

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第 197 回 生死をかけた選挙ドラマ ～天邪鬼劇作家の独り言

2007.4.15

統一地方選挙の第1弾、特に東京都知事選挙は、石原慎太郎氏の圧勝に終わった。仮に小生がへそ曲がりの、天邪鬼「劇作家」だとすれば、今回の選挙は、マスコミ的に言えば、オリンピックにも匹敵する、滅多にない最大のドラマである。今回のドラマがシナリオ通りに演じられたとすれば、劇作家冥利に尽きるというものである。

その天邪鬼シナリオとは...シナリオは前回選挙直後、3年前から始まる。

戦後復興の経済的、精神的^{いしずえ}礎になった東京オリンピックを再現しよう。オリンピック誘致をパワーに石原ムードを盛り上げよう！実際はちょっと先の話だし、決めるのはJOCやIOC、石原に責任はない。でも、実証実験として選挙直前に「東京マラソン」なるイベントを大々的に開催、ムードが盛り上がった流れで選挙に突入、そんなシナリオでこの選挙劇が始まる。

想定外のことが起こった。敵陣営から、石原の四男と石原自身の公金乱用等をリークする妨害工作が発生、自信過剰で不遜な石原も、過激なマスコミ攻撃にさすがに弱音を見せ始めてしまった。

これではダメだ！何としても投票率を上げよう。そのためには、もっと著名人が立候補しなければ、マスコミや有権者の関心が上がらない。そうだ、朋友である黒川紀章に頼もう！彼は本気で都知事になるつもりはないし、パフォーマンス大好き人間、もってこいの人材である。黒川がトリガーになって、きっと、色々なやつが名乗り挙げるだろう。

マスコミや評論家は「無党派層」と騒ぐが、堅いのは共産党と公明党。それ以外は自民党といえども似たようなもの、益しては民主党なんぞ、元々固まっていない。マスコミが連日盛り上げてくれれば、結局石原に有利になる。公金乱用のプライベート批判は、あの石原に「反省」の弁を各遊説箇所でしゃべらせよう。少しは謙虚な態度を見せること、それでとりあえず解決。よし、これで行こう！

作戦は見事に成功。かの黒川紀章氏は、見事に「本気で当選する意思のない、パフォーマンス」を演じてくれ、彼のお陰で、立候補者も増えた。もっと大物が欲しかったが、せいぜい浅野止まりだったのが、やや残念。黒川氏には、何らかの御返しを考えよう。

どうせやっても後1期、78歳になればもはや総理大臣の目もない。最後の4年、都知事を思いっきりやって、後は「備忘録」「秘話」、もの書きで儲けよう。

やぶにらみの選挙シナリオ、小生、選挙には全くの素人ゆえ、真偽のほどは皆自分からない。が、こんなシナリオがあってはならないと信じている小市民、有権者の一人である。しかし、選挙は本人にとっては正に死活問題、生死をかけたドラマであること、間違いのない。誰かがどこかで、そのシナリオを書いているに違いない。